

都民向けフォーラム

口腔がん・糖尿病・禁煙

WEB開催

参加料無料

配信期間

令和3年 3月1日(月)～31日(水)
(2021年)

講演時間

各講演 約30分 ※禁煙は講師2人で計30分

講演

口腔がんフォーラム

演題: 歯科医院での診察で
「口腔がん」の予防と早期発見を

東京歯科大学 水道橋病院 病院長
東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授 片倉 朗 先生



糖尿病予防フォーラム

演題: 歯周病と全身の健康

東京歯科大学 歯周病学講座 教授 齋藤 淳 先生



禁煙支援フォーラム

演題: 禁煙外来のニューノーマル
ーオンライン診療とアプリ処方ー

東京歯科大学 市川総合病院呼吸器内科
講師、禁煙外来担当 中島 隆裕 先生



演題: 医科－歯科連携による禁煙支援

東京歯科大学 歯周病学講座 教授 齋藤 淳 先生



お申込み・お問い合わせ先

本フォーラムは、パソコン、タブレット、スマートフォンでご視聴いただけます。
当日の視聴には事前登録が必要となります。下記URLまたは
二次元バーコードよりアクセスし、申込フォームに必要事項を
ご入力の上、お申し込みください。

<https://j-entry.gostream.jp/entry/seminars/view/ZyRfz5D93j>

公益社団法人 東京都歯科医師会・事業第一課
電話: 03-3262-1148 (受付時間: 平日10～16時〈土日祝は休み〉)



主催／公益社団法人 東京都歯科医師会
<http://www.tokyo-da.org/>



口の中にも「がん」ができます・・・

歯科医院での診察で「口腔がん」の予防と早期発見を

東京歯科大学 水道橋病院 病院長
東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授

片倉 朗

講演要旨

小さい1個の口内炎がしみてしまい憂鬱な思いをした経験は誰もががあると思います。口の中は歯が原因となる病気以外にも歯肉・舌・頬などの粘膜にも色々な病気が発生し、さまざまな症状を呈します。口の粘膜の病気は、自分で症状に気づいた時には随分と進んでしまっていることが多いのが実際のところです。その中には「がん」もあります。

口の中にできるがん「口腔がん」は日本では年間約8,000人位の方に発生しますが、そのうち60%位の方は病気がだいが進んでしまってから専門医療機関を受診しているのが現状です。「口」は食べる、飲み込む、話す、など生きてゆく上で重要な機能を担っています。口腔がんの早期発見はこれらの機能を保った治療に直結します。今回は都民の方々に舌や

歯肉にできる様々な病気の初期症状を知っていただき、日頃からのセルフチェックの方法をお話しします。また、タバコやお酒が口の中の病気にどのように関わっているかについても解説します。

歯科医師は歯だけではなく、口の中全体をその守備範囲としています。『食べる』ことは生きてゆくために必須の営みであり、また人生の最後まで残る楽しみです。歯科診療所で歯や歯周病の定期検診と一緒に口の中全体を診てもらって、口腔がんを含めた粘膜の病気をチェックしてもらうことが、「健康長寿」につながります。

略歴

1985年	東京歯科大学 卒業	2008年	東京歯科大学 口腔外科学講座准教授
1991年	東京歯科大学 大学院修了(歯学博士)	2011年	東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 教授
2003年~2004年	UCLA歯学部 口腔外科・医学部頭頸部外科に留学	2015年	東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授
		2019年	東京歯科大学 水道橋病院 病院長

所属学会等

(公社)日本口腔外科学会指導医、(社)日本老年歯科医学会指導医、(一社)日本口腔診断学会指導医、(公社)日本顎顔面インプラント学会指導医、(一社)日本有病者歯科医療学会指導医、(一社)日本口腔腫瘍学会暫定指導医、(一社)日本顎関節学会暫定指導医、(一社)日本小児口腔外科学会指導医、(一社)日本口腔内科学会指導医、(一社)日本感染症学会 インフェクション コントロール ドクター など

歯周病と全身の健康

東京歯科大学 歯周病学講座 教授

齋藤 淳

講演要旨

歯周病は罹患率が極めて高い病気であり、人々の健康を脅かし続けています。食事をおいしく食べることは人生の大きな楽しみですが、歯周病になり、病状が進行すると最終的には歯が失われ、食事に大きな影響を及ぼします。歯周病は生活の質(QOL)も悪化させることが明らかになっています。

歯周病の予防・治療では、歯周病原細菌から成るデンタルプラーク(バイオフィilm)をコントロールすることが重要です。しかし、口のなかに存在する細菌は700種以上といわれ、その中には善玉菌や悪玉菌も含まれています。このように私たちは多くの細菌と共生しているため、バイオフィilmへの対応は簡単ではありません。さらに喫煙や遺伝など多くの因子が歯周病のリスクとなるため、生活習慣や歯周病以外の疾患を考慮した対応が求

められています。

歯周病は糖尿病、冠状動脈心疾患、早期低体重児出産、誤嚥性肺炎、骨粗鬆症をはじめとする病気・全身状態と関連することが明らかになっています。最近では、アルツハイマー病との関係についても報告されています。お口の健康なくしては、全身の健康は得られないと言ってもよいでしょう。

今回、歯周病についての基本的事項を確認し、歯周病が全身の健康にどのような影響を及ぼすのか、特に糖尿病に焦点をあて、最新の知見を交えてご紹介いたします。皆様が明るく楽しい毎日をおくるために、歯周病の予防を実践するきっかけとなれば幸いです。

略歴

1989年	東京歯科大学 卒業	二講座 講師(非常勤)	
1993年	東京歯科大学 大学院修了 博士(歯学)	2002年	日本歯周病学会指導医,東北大学歯学部 非常勤講師(～2006年3月)
1994年	日本歯周病学会歯周病専門医	2003年	宮城高等歯科衛生士学院 教務部長
	米国New York州,State University of New York at Buffalo, Dept. of Oral Biology 客員研究員(Director: Professor Robert J Genco)	2007年	東京歯科大学口腔健康臨床科学講座 講師(水道橋病院総合歯科)
1998年	東京歯科大学歯科保存学第二講座(現 歯周病学講座)講師	2011年	東京歯科大学歯周病学講座 教授,講座主任
1999年	齋藤歯科(仙台市青葉区)副院長,東京歯科大学歯科保存学第		東京歯科大学千葉病院保存科部長
		2012年	広島大学歯学部 非常勤講師(～2013年3月)
			日本歯科保存学会歯科保存治療専門医・指導医
		2014年	東京歯科大学水道橋病院保存科部長(～2017年5月)
		2015年	日本歯周病学会常任理事
			新潟大学歯学部 非常勤講師(～2016年3月)
			九州大学歯学部 非常勤講師(～2016年3月)
		2019年	奥羽大学歯学部 客員教授
			現在に至る

禁煙外来のニューノーマルーオンライン診療とアプリ処方ー

東京歯科大学 市川総合病院呼吸器内科
講師、禁煙外来担当

中島 隆裕

講演要旨

2020年東京都受動喫煙防止条例が全面施行され、屋内は原則禁煙(病院や学校、行政機関等は建物内完全禁煙)となり、受動喫煙防止の取組はマナーからルールとなりました。10月からたばこ税が増税され、たばこも値上げされました。これらをきっかけに、禁煙に取り組もうとされる方が多くなることが予想され、禁煙外来の必要性がますます高まっています。喫煙習慣というのはタバコに含まれるニコチンの慢性的依存症となっている病気であり、積極的に治療し改善が得られるという考えで、禁煙治療に対して、2006年4月から健康保険が適応されるようになりました。喫煙は趣味嗜好でなく、依存症の一つだという認識が定着してきています。2020年からは

加熱式たばこ喫煙者もニコチン依存症患者であることに変わりなく、禁煙保険治療の対象になりました。また、対面診療以外にオンラインを組み合わせでの診療が可能となり、患者の通院負担が軽減し、治療中断率の減少が期待されています。さらに、薬物療法だけでなく、心理的依存へのアプローチとフォローを強化するアプリが開発され、保険適応となりました。アプリ機能には応答チャット教育動画コンテンツなどあり、通院時以外の院外・在宅での心理的依存に対してフォローしてくれます。新規の禁煙治療外来利用者が増加し、IT技術の普及により、通院を中断せず治療プログラムを完了することで、禁煙成功率の向上が期待されます。

略歴

1996年	慶應義塾大学医学部卒業	2008年	Massachusetts州立大学呼吸器内科 (Post Doc Associate)	2014年	東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科助教
2003年	慶應義塾大学医学部助手(内科学)			2017年	東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科講師
2007年	慶應義塾大学医学部助教(内科学)	2010年	Harvard大学Brigham and Women's Hospital (Research Fellow)	2020年	千葉県立幕張総合高校看護科 非常勤講師
	川崎市立川崎病院内科(呼吸器内科)				

医科ー歯科連携による禁煙支援

東京歯科大学 歯周病学講座 教授

齋藤 淳

講演要旨

日本における成人の喫煙者は、男性で約29%、女性8%(2018年)であり、減少傾向を示しています。しかし、先進国の中ではまだ「喫煙天国」であり、たばこを吸いやすい環境にあるといえます。たばこには7,000以上の化学物質が含まれており、そのうち、ニコチンをはじめとする有害物質は200種類以上とされています。喫煙が関与する病気には、がんをはじめ様々なものがありますが、喫煙者本人の健康だけではなく、まわりの人々に対しては、受動喫煙による健康被害が世界的にも問題視されています。

歯周病は歯周病原細菌から成るデンタルプラーク(バイオフィilm)が主な原因です。これまでの研究で、喫煙は歯周病の環境面での大きなリスクファクターであることが示されています。喫煙は歯を支える歯周組織に悪影響を及ぼし、歯周病の治療にもマイナスに働きます。今回、喫煙と歯周病の関係について、さらに、本学水道橋病院における医科ー歯科連携による禁煙支援についてご紹介いたします。